

鎌倉幕府

時を源平の争乱前に戻し、源頼朝に焦点をあてる。頼朝は諸国に支配権を及ぼして鎌倉幕府を確立した。幕府の成立年には諸説あるが、幕府の成立を一定の時点に結びつけること自体無理である。むしろ1180~85年を幕府の成立期とし、1192年に臨時政府を開ける征夷大將軍の就任をもって、名実ともに成立したと考えたい。

○ 鎌倉幕府の成立

● 全国に及ぶ支配権

(1) _____ は天皇の血筋を引き、源義朝の遺児のなかでも年長であった。

→反平氏の際には、血筋ゆえに(1)のもとに東国の武士が結集した。

⇒1180年、(1)は挙兵して、相模国鎌倉を根拠地に勢力を強めた。



1183年(平氏の敗走後)、**寿永二年十月宣旨**——(A)

…当時、争乱や飢饉で東国の荘園・公領からの税納入が停滞

…朝廷は頼朝に税納入を保証させ、代わりに東国の実質的な支配を許可



1185年の平氏滅亡後、後白河上皇は(1)を恐れ、源義経に追討を命じた。

→(1)は先んじて都に軍を送り、後白河に義経追討の命令を出させた。

→加えて(1)は、追討のために後白河から次の2つの権利を得た。

①諸国に(2) _____ を、公領・荘園に(3) _____ を置く権利

②(3)が、公領・荘園から1段あたり5升の兵糧米を徴収する権利

⇒(1)の支配が西国にも及んだ。——(B)



図1 源頼朝



図2 源義経

● 名実ともに幕府成立

源頼朝に追われた源義経は、奥州藤原氏の(4) _____ を頼った。

→(4)の死後、子の藤原泰衡は頼朝を恐れ、義経を自殺に追い込んだ。

⇒頼朝は義経をかくまったことを理由に、奥州藤原氏を滅ぼした。



後白河上皇の死後、1192年に頼朝は(5) _____ に就任した。

⇒名実ともに(6) _____ が成立し (A)(B)を経て機構は既に存在)、

以降の(6)の滅亡までの時代を鎌倉時代と呼ぶ。



図3 藤原秀衡

○ 幕府の支配体制

● 封建制度—土地を介した主従関係

將軍(頼朝)は開発領主(田地開墾に及んだ土着の軍事貴族や有力農民)と主従関係を結んだ。

⇒將軍と主従関係を直接結んだ者を(7) _____ と呼ぶ。

<(8) _____ (將軍が御家人に与える恩恵) >

(9) _____ …先祖伝来の田地の支配を將軍が保障すること

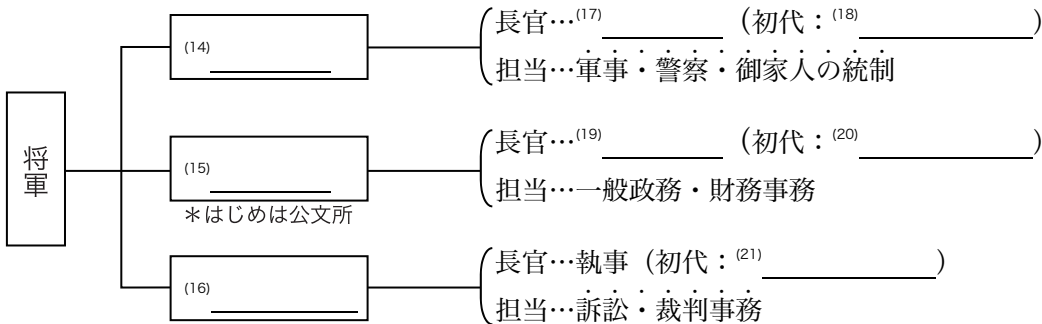
(10) _____ …新たな田地を將軍から与えられること(平家没官領などから分与)

◇平家没官領…平氏に寄進された大量の荘園群で、平氏滅亡後に朝廷に没収され、全て頼朝に付与

< ⁽¹¹⁾ _____ (御家人が将軍の恩恵に報いること) >

戦時…軍役／平時…⁽¹²⁾ _____ (京の警護)・⁽¹³⁾ _____ (鎌倉の警護)

●中央の機構（初期の幕府）



◇他機関と異なり、裁判を司る(16)の長官は、機関の決定権(訴訟の裁決権)なし
⇒訴訟の裁決権は将軍にあり、それゆえに他の長官と異なる名称

●地方の機関

< ⁽²²⁾ _____ >

諸国に1人ずつ置かれ、国の治安維持や地頭の指揮統率を担当した。

⇒有力御家人から任命され、基本的な権限は⁽²³⁾ _____ と総称する。

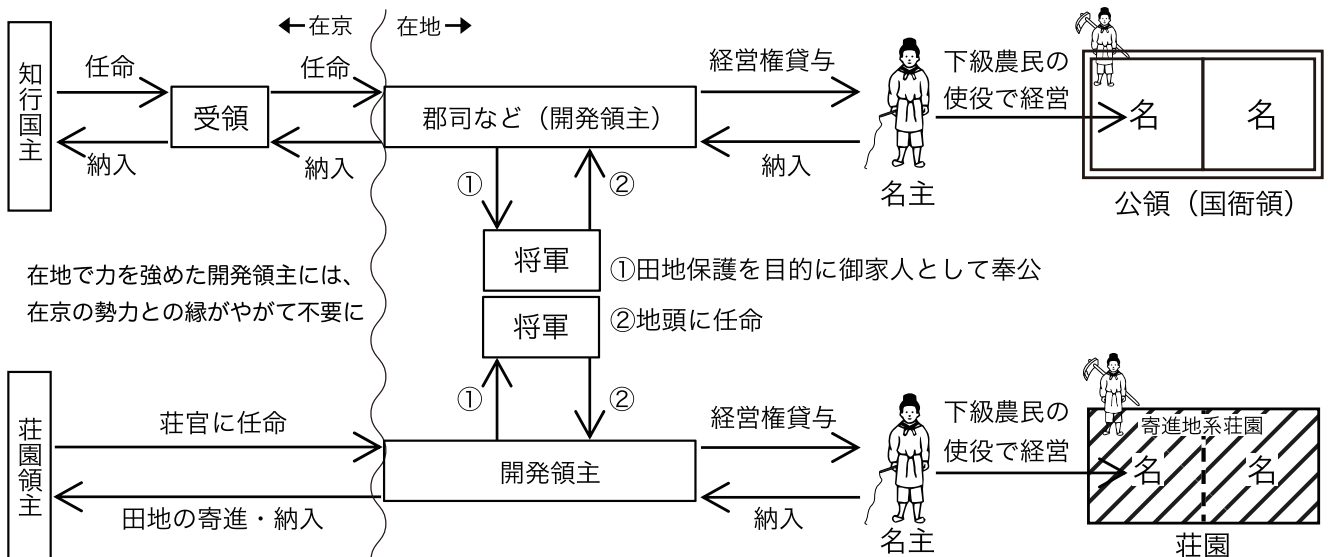
◇(23) …地頭に京都大番役の催促／^{むほん}謀叛人の逮捕／殺害人の逮捕

< ⁽²⁴⁾ _____ >

公領・荘園に置かれ、現地で直接支配をおこない、^{みょうしゆ}名主からの徴税を担当した。

⇒将軍が源頼朝の頃、朝廷の力はまだ強く、知行国主・荘園領主が朝廷関係者の場合、

(24) は公領で将軍と受領の、荘園で将軍と荘園領主の2元的支配を受けた。



●幕府の経済的基盤

次の公領・荘園からの収入は、幕府の経済的基盤となった。

① 関東知行国…将軍の^{ちぎょうこく}知行国

② ⁽²⁵⁾ _____ …平氏から没収した荘園を含む、将軍を荘園領主とする荘園群